

國之民、竝百八十部、曲預造雙墓、今來、一曰大陵、爲大臣墓、一曰小陵、爲入鹿臣墓、望死之後、勿使勞人、更悉聚上宮乳部之民、乳部、此云美文、役使營兆所、於是上宮大娘姬王、發憤而歎曰、蘇我臣、專擅國政、多行無禮、天無二日、國無二王、何由任意悉役封民、二年十月壬子、蘇我大臣蝦夷、緣病不朝、私授紫冠於子入鹿、擬大臣位、復呼其弟曰物部大臣、大臣之祖母物部弓削大連之妹、故因母財取威於世、三年十一月、蘇我大臣蝦夷兒入鹿臣、雙起家於甘檮岡、稱大臣家、曰宮門、入鹿家曰谷宮門、谷、此云波佐麻、稱男女曰王子、家外作城柵、門傍作兵庫、每門置盛水舟一、木鈎數十、以備火災、恒使力人持兵守家、大臣使長直於大丹穗山、造梓削寺、更起家於畝傍山東、穿池爲城、起庫儲箭、恒將五十兵士、繞身出入、名健人曰東方儼從者、氏氏人等、入侍其門、名曰祖祖子孺者、オヤノコヲラハ漢直等全侍二門、

〔神皇正統記皇極〕この時に蘇我蝦夷の大臣、馬子大なるびにその子入鹿、朝權を專に去て、皇家を蔑にする心あり、その家を宮門といふ、諸子を皇子となんいひける、上古よりの國記重寶、みな私宅に運び置きてける、中にも入鹿悖逆の心甚し、聖德太子の御子達の科なくましくしをも滅し奉る、こゝに皇子中大兄天智と申すは、舒明の御子、やがてこの天皇御所生なり、中臣鎌足連といふ人と心を一にして入鹿を殺しつ、父蝦夷も家に火をつけてうせぬ、國記重寶はみな焼にけり、蘇我の一門久しく權をとれりしかども、積惡の故にや皆滅びぬ、

〔國史纂論二〕禎曰、我朝外戚之專權、蘇我氏爲始也、前朝寵馬子大過、遂至於使蝦夷父子謀僭逆矣、書曰、罔啓寵納侮、觀彼歷代外戚專權、宦官肆橫、藩鎮跋扈之類、皆其始啓寵以納侮者也、而其勢既極、則至於不可圖焉、人君操縱之術、不可不謹其微矣、

〔續日本紀十聖武〕天平元年二月辛未、左京人從七位下漆部造君足、无位中臣宮處連東人等、告密稱左大臣正二位長屋王、私學左道、欲傾國家、其夜遣使固守三關、因遣式部卿從三位藤原朝臣宇合、衛門佐從五位下佐味朝臣虫麻呂、左衛士佐外從五位下津嶋朝臣家道、右衛士佐外從五位下紀朝臣佐